



防災行政無線の活用を

景山 登美男 議員

一般 質問

令和6年 12月定例会

情報提供で共通認識を

高橋 英次 議員



Q 町内保育所の状況は

現在町内には赤名・来島・頓原・志々と4か所で保育所が開設され、9月末時点では119名の園児数だ。
④保育所施設について、今までに耐震診断を行ったことはあるのか。
③現在の保育士の人数と、現行人員での保育状況は。
②今年度の育了見込みの園児数と、来年の入所見込み数は。
①保育目標、保育士の勤務環境等、施設全体に関する方針計画はあるのか。

A 「飯南町公共施設等総合管理計画」で

町長塚原隆昭

①これまで耐震診断を行ったことはないが、赤名保育所・桜ヶ台保育所は「鉄筋コンクリート造」、来島保育所・さつき保育所は「鉄骨造」で耐久性が見込まれ、適切な維持管理を継続。



赤名保育所

②正職員25名、臨時職員25名。
③13名が育了を迎え、入所見込みは、最大で26名。
④「恵まれた自然環境、そして温かい人間関係の中で豊かな人間性のある子どもを育成する」を町の保育理念に、社会福祉協議会では「心豊かに、たくましく生きる子どもを育む」との方針がある。
施設については「飯南町公共施設等総合管理計画」の中で定めてあるが、より良い保育のあり方は、常に研究していく。

Q 旧赤名駅舎車庫の安全性は

旧国鉄バス赤名駅舎車庫があり、現在生活路線バスと備北交通バスが利用している。
この車庫は7月の半夏まつり催し物開催場所としても使用され、赤名自治振興会「スノーヘルパー」が、ボランティア活動として除雪作業を行う除雪道具一式も格納されている。



旧JRバス赤名駅舎車庫

登校路にも面するこの建物の安全性は、現在どの程度の段階と認識するか。

A 安全は保障されていない

町長塚原隆昭

昭和9年建設で大変古く、建物検査もしておらず、安全性が保障された建物ではない。
事務所部分は鉄筋コンクリート造で、すぐ倒壊する状態ではないと認識。

Q 情報提供をもっと

小学校耐震結果の住民説明会で、住民の方は唐突な発言だと発言されていたが、前段での説明が不十分であったのではないかとと思われる。
情報提供により、飯南町の変化の具合を町内全域で共有、認識し、わかりやすい行政を行うべきでは。

A 適正に公表する

町長塚原隆昭

段階毎に情報はきちんとお伝えし、理解を得て物事を進める。

Q 災害時の透析医療の確保を

町内の透析患者は、町内に透析を受けることができる医療機関がないため、雲南市や三次市などへ個別に通うか、町の送迎車で通院している。

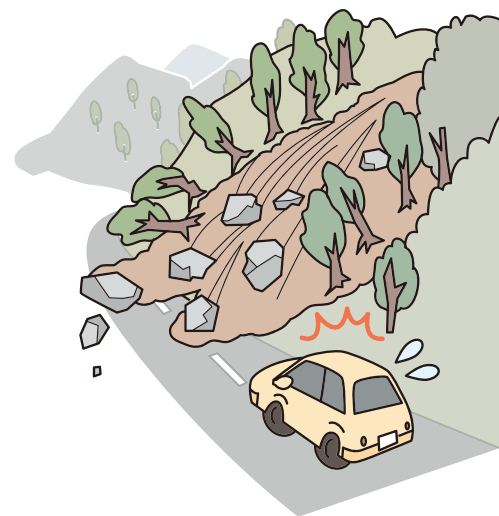
A 体制づくりを進めたい

町長塚原隆昭

平時から搬送ルートや搬送手段を含めた検討を行っておくことは必要だ。
福祉事務所では、自分で通院できない方の搬送支援を定期的に行っている。定期的に実施し、冬季や出水期には時間を変更したり、災害の危険性が低いルートでの送迎を行ったりしている。
今後も、県や雲南保健所と連携しながら、しっかりと体制づくりを進めたい。

Q 二つの放送施設柔軟な活用を

音声告知放送は、行政機関等からの各種業務の案内、行事予定、おみやみなどのお知らせやグループ放送として、小・中学校、公民館及び自治区長、自治会長、組長、また登録されている団体から区域内への放送が可能である。



一方、防災行政無線では、屋外スピーカーにより、火災、災害情報の伝達をはじめ、気象警報や災害発生時の避難勧告、全国瞬時警報システム（Jアラート）との連携による緊急地震速報や武力攻撃事態等が発生したときの警報などが伝達される。また定時のチャイムも鳴っている。クマの出没情報や音声告知放送設備のトラブルなど、現在音声告知放送で放送しているもので、屋外スピーカーを使った方が効果的である場合には、防災行政無線で放送できるような柔軟な活用を検討してはどうか。

A 柔軟に対応したい

町長塚原隆昭

熊の出没情報を防災行政無線で周知することは、屋外の方への情報伝達手段として非常に有効なので、防災行政無線の活用に向けて、操作方法の研修を行いながら進めたい。

告知放送設備のトラブルなど、防災行政無線での放送が有効と思われる内容については、その活用を考え、柔軟に対応したい。



防災行政無線の放送室